富士川游博士年譜

慶応元年（一八六五）
五月一一日、広島県沼田郡安村（現広島市安古市町）大字長楽寺に、医師雪（すすぐ）とその妻タネの長男として生まれた。幼名を充人（みつと）といった。

明治一一年（一八七八）　一三歳
九月、浅野学校に入り中等教育をうける。

明治一二年（一八七九）　一四歳
九月、広島県立広島中学校に転学する。

明治一四年（一八八一）　一六歳
九月、広島県病院付属医学校（のちの広島県広島医学校）に入学する。このころ游と改名する。

明治二〇年（一八八七）　二二歳
七月、広島県広島医学校を卒業する。
秋、上京する。明治生命保険会社の保険医となる。中外医事新報社に入社する。

明治二三年（一八九〇）　二五歳
四月、第一回日本医学会記録幹事となる。
この年、呉秀三、土肥慶蔵と相い識る。

明治二四年（一八九一）　二六歳
このころから医史学の研究を本格的にはじめ、史料の蒐集に没頭する。

明治二九年（一八九六）　三一歳
三月四日、第五回医家先哲追薦会を、ジェンナー種痘発明百年記念およびシーボルト百回誕生祭として、上野不忍池畔長蛇亭にひらく。『ジェンナー種痘発明百年記念文集』を刊行する。
五月一〇日、呉秀三、尼子四郎、三宅良一らとともに芸備医学会を創立する。

明治三一年（一八九八）　三三歳
一〇月二八日、イェーナ大学医学部の入学をゆるされ、主としてスティンチング、マッテース両博士について内科学、とくに神経病学や理学療法をおさめる。

明治三三年（一九〇〇）　三五歳
八月、イェーナ大学からドクトル・メディチーネの学位をうける。
九月一三日、東京に帰る。日本橋中洲養生院内科医長となる。

明治三五年（一九〇二）　三七歳
四月、三浦謹之助、呉秀三によって創立された日本神経学会の評議員となる。
一一月二五日、日本内科学会創立委員となる。
一二月、高島平三郎、松本孝次郎と日本児童研究会（のちの日本児童学会）を創立する。

明治三六年（一九〇三）　三八歳
四月、日本内科学会が創立され、その常任幹事となる。

明治三七年（一九〇四）　三九歳
一〇月、『日本医学史』をあらわす。
明治四〇年（一九〇七）　四二歳
七月、日本児童研究会の幹事となる。
明治四一年（一九〇八）　四三歳
六月二三日、臨時脚気病調査会（会長・森林太郎）委員となる。
明治四五年（一九一二）　四七歳
五月一二日、『日本医学史』にたいし、帝国学士院から恩賜賞を授与される。
大正二年（一九一三）　四八歳
五月、日本民俗学会が創立され、その評議員となる。
一一月、文部省から経穴調査委員を委嘱される。
この年、片山國嘉、呉秀三らとともに犯罪学協会を創立する。
大正三年（一九一四）　四九歳
七月、文学博士の学位を授与される。
大正四年（一九一五）　五〇歳
三月、京都大学より医学博士の学位を授与される。
大正五年（一九一六）　五一歳
一月、親鸞聖人讃仰会を創立する。
六月、保険衛生調査員を委嘱される。
大正六年（一九一七）　五二歳
この年の春、京都帝国大学に古医書四三四七部八三三一冊を寄贈する。昭和年代まで数回にわたって寄贈がつづけられ、現在京大医学部図書館に「富士川文庫」として保存されている。
大正八年（一九一九）　五四歳
七月、親鸞聖人讃仰会を正信協会と改称し、その幹事となる。
大正一一年（一九二二）　五七歳
五月一〇日、小塚原観臓記念碑が竣工する。
大正一二年（一九二三）　五八歳
九月一日、関東大震災にあう。鎌倉雪ノ下の寓居が崩壊して、膝蓋部に負傷する。
大正一三年（一九二四）　五九歳
大阪に中山文化研究所が創設され、その所長となる。
昭和二年（一九二七）　六二歳
一一月一四日、入沢達吉、土肥慶蔵、呉秀三らとともに日本医史学会を創立する。
昭和九年（一九三四）　六九歳
九月、胆石症の発作により修善寺で静養する。
昭和一三年（一九三八）　七三歳
一一月、日本医史学会理事長となる。
昭和一五年（一九四〇）　七五歳
一〇月五日、胆石症にて臥床する。
一一月六日死去する。

（酒井　シヅ）